



<p style="text-align: center;"><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 目的1：先端的情報技術や活用事例の調査結果の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会の中で、各委員の研究・教育活動を紹介し、先端技術やその活用事例等を共有した。</li> <li>・情報シンポにおける研究集会の企画・実施を通して、国内外の先端的な建築情報技術の動向を整理し、情報シンポ論文集の資料として公開した。(上記「催し物」の欄、および下記を参照)</li> </ul> <p>2. 目的2：研究会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第33回情報・システム・利用・技術・シンポジウムの研究集会として「最新の建築情報教育報告－BIM教育の思想と手法」を開催し、MITの長倉教授やFox氏らによる米国での研究・デザイン活動の紹介、IAI猪里氏による国内外のBIMにまつわる建築産業界の動向把握、および委員や外部研究者による建築の新しいものづくり技術やBIM関連の研究・デザイン・教育活動の紹介などを行った。</li> <li>・BLT2010シンポジウムを共催(2月予定)</li> <li>・委員によるALGODEシンポジウムおよびASST国際学生ワークショップ(共に3月開催予定)のサポート</li> </ul> <p>3. 研究活動成果のとりまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の研究集会の資料に加え、大学教育に関わる委員を対象として、各委員の情報技術を活用した教育・研究実践に関するポートフォリオを制作し、それらを集約・公開する。(進行中)</li> </ul>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. 2009年度は小委員会を4回実施したが、今年度は2回に留まった。</p> <p>2. CADを超えた領域では、建築情報教育は一部を除いて、我が国ではまだまだ取組は少なく、欧米との格差は歴然としている。高度でありながら普遍的な教育プログラムやスタジオのあり方を考える必要がある。</p>
<p style="text-align: center;"><b>その他</b></p>	